

# セーフティドライビングフェスタin舞洲2008

■12月13日(土) ■大阪市舞洲スポーツアイランド・イベント会場  
 ■主催/セーフティドライビングフェスタ実行委員会  
 Photo & text / Takatoshi Yamaguchi (山口貴利)

## 特設コースで「積極的安全運転」を体験



ウェット路面でのスラローム。講師が横に乗り安全にかつ大胆に運転。車の挙動が良くわかり、車の運転に自信が付いたと喜んでた。



こちらはABSの体験。微妙だがタイヤが回っているのわかるかな。こんな体験は普段出来ない受講生にも受けは良かった。



このイベントを企画・運営したリードドライバーの福永修。「身障者は身障者だけでとかそういうのではなく、身障者も健常者も壁を取っ払って、もっとユニバーサルになっていければと思っています。健常者にはもっと身障者の人達のことをわかってもらえるマナーを持って欲しいし、身障者の人も「クルマ」というキーワードを使って、社会復帰して欲しいという願いなんですよ。今のクルマ社会は、事故はほとんど増加傾向にあるけど、死亡事故はほとんど減っている。言い換えれば、事故が原因で身障者になる人も増えてきているということなんです。特にモータースポーツをやっている僕らの場合は、実は身近な問題でもあるんです。もうちょっとそういうことに対して目を向けて欲しいっていう思いがあるんです。何かしらのカタチで社会貢献したいという気持ちと、結果的に僕を通じていろんな方にモータースポーツを理解してもらえればと思っています」



ローションを使ったウェット路面の体験。ABS有り無しの違いを確認するためヒュースを抜いての振るロックブレーキを体験。



今回、飛び入り参加した受講生。中嶋選手から「走ってみたら」と気軽に声を掛けられ大満足の1日となった。



一般入場者も同乗 OK のデモラン&同乗走行は、チビッコにも大人気。



レディドライバーの大井こずあは、愛車「ハナゴ」を駆りデモランを激走。



# 身体障がい者の方の積極的安全運転講習会



車を通じてバリアフリーの世界を作る画期的なイベント「セーフティドライビングフェスタ」が12月13日に大阪舞洲スポーツアイランドで開催された。企画、主催をしたのは全日本ラリー選手権JN2クラスでシリーズ3位のドライバー福永修だ。彼は開会の挨拶の中で「1ヶ月前からもう開催は無理じゃないかと……」と開催にこぎつけたことにより感極まり涙を見せるシーンもあった。約2ヶ月前にリードドライバーとして社会に何が貢献できるのだろうと自問自答。出てきた答えがこのイベントだ。

## トップリードドライバーによるデモラン!

新井敏弘のデモランにはギャラリーの視線も釘付け!



08年、JRC Aアワードを受賞した村瀬太やジムカーナの馬場和三部も応援に駆けつけ、講師を務めた。

奴田原文雄は、ハセプロランサーでデモラン。



最後は、豪華賞品が用意されたジャンケン大会を開催。今年も年末の12月に開催が予定されているセーフティドライビングフェスタ。次回もぜひ多くの人に参加して欲しいイベントだ。



講師の車椅子ドライバーの中島努と勅使河原隆弘に加え、新井敏弘、奴田原文雄、大井こずあらによるトークショーは、福祉に重点を置いた内容で展開。



レースで活躍する勅使河原隆弘(左)とジムカーナで活躍する中嶋努(右)は、クルマの中から外から講習を担当。

語りつづけた。また、ホームページを見て「どんなんやっているんやろ?」と、当日飛び込みで見に来た車椅子の男性も途中から講習に参加し、「同じ車椅子ドライバーの中嶋さんらに教えて戴き、とても勉強になりました。次はもっと告知をしっかりとしてもらえれば、もっともっと多くの人が参加してもらえるのにもっといい感じがします」と語っていた。なにしろ参加料は無料という手弁当のイベントだけに、告知の手薄はいたし方のないところが残念でもあった。

講習のあとは、各講師らによるトークショーが開催され、普段とは違った内容のトークに会場が一体感に包まれ和気あいあいと進んでいた。そのあとは彼らによるデモ走行。参加者は助手席に同乗もして「クルマってこんな動きするんだ」と、新たな感動も生まれていったようだ。手探りながらも大きな志を持つイベントを作り上げた福永は、「一番苦労したのは、社会貢献をしたいと思っただけで何をどうのよう形でやればいいのかと考えることでした。それで講習会やトークショーを、とりあえずやってみようという感じです。まだまだやらなければならぬことがたくさんありますが、今回のメッセージとして、お互いの理解を深め、身障者スペースに平気でクルマを停める人らは、裸で町を歩くらうい恥すべき行為をしているという認識を、みんなが持っている世の中にしたい。それぐらいの意識がないとバリアフリーにはならないのではないかと」と語る。真のバリアフリーとは、この言葉が無くなること。すなわち健常者も障がい者もお互いが理解し、共生の世の中になるよう今後も福永はがんばる決意だ。それに向かつてみんなが応援したいと思う、とても素晴らしいイベントだった。

当日、福永の趣旨に賛同し集まったスタッフは約80人。「彼らの存在があったからこそ開催できた」と、福永は喜ぶ。とにかくどんな内容をするのか手探りの状態でなんとか開催日にこぎつけた感もあり、当日タイムスケジュールを変更する場面も見られたが、スタッフはそれぞれの立場で真剣に運営していたのが印象的だった。

具体的にイベントの内容に触れると、メインとして身体障がい者のための積極的安全運転講習会があげられる。メインの講師は、全日本ジムカーナで活躍する車椅子ドライバーの中嶋努と、同じくレース界での車椅子ドライバーのバイオンである勅使河原隆弘が動いた。彼らからのアドバイスは受講者にとっては同じ障害者からのアドバイスということでも、特殊な装置の扱いも含めすくく受け入れやすかったようだ。

内容は、基本的にはクルマの動かし方を講習。アクセルを全開にしてフル加速そしてフルブレーキングを行い、ABSのあるなしでの挙動の違いや、ローションを使いすく滑る低ミューの路面を使ったブレーキングやスラロームなど行われていた。これには、ラリーから村瀬太が、またジムカーナの馬場和三部も講師として熱心にアドバイスを送っていた。午後からは、彼らに加え世界の最新車や奴田原文雄、それに太井こずあが加わり、彼らが助手席に乗り、セーフティドライビングをアドバイスするといった、健常者でもなかなかチャンスがない濃い内容の講習となったようだ。

今回参加したある女性ドライバーは、「免許証は更新しただけで、運転は怖くて逃げ腰になっていました。でも、今回教えて戴いたことによって自分の運転に自信ができました。これで行動範囲が広がります。次は同じ障がいを持った仲間達を誘って参加します」と、こやかに